

若浜の子ども



令和2年3月16日 第10号

感染予防、卒業式 今できることを考えて



ショッピングモールでの衝撃

3月15日(日)正午過ぎに市外のショッピングモールに行ったところ、予想を上回る混雑ぶりでした。駐車場はほぼ満車。店内は親子連れも含めて、人、人、人。4月から新生活をするための準備で買い物に出かける必要がある時期であったこともあったのですが、それにしても驚きました。

卒業式の在り方検討の経過

卒業式のあり方について14日(土)9時から酒田市招集校長会議で教育委員会と2時間半にわたる協議をし、その後近隣の学校の校長と具体的対応について話し合い、午後から教頭と1時間対応策を検討しました。さらに翌15日(日)は朝9時からPTA会長、6年P副会長、6P学年委員長、卒業祝賀会実行委員長、教頭、校長の6名で約1時間、細かな点まで配慮事項を検討しました。(その後にショッピングモールの様子を見たので余計驚いたのかもしれませんが。)

これまでに耐えてきたことを無駄にしない

臨時休業、ありとあらゆるイベントの中止、そして卒業式の縮小。ストレスがたまっている中、晴天で暖かな日曜日に気晴らしをしたくなるのは当然です。ただ考えなければならないのは、これだけ様々な犠牲に耐えている中、それらを自らの手で無駄にする行動は避けたいということです。幸い今は店舗の混み具合等をスマホで確認できる時代です。感染リスク低減のための知恵を働かせることを、建前と本音を使い分けるのではなく、本当の姿、行動で子どもに伝えなければなりません。

長続きできる感染予防を

また、今回の感染症の流行は、これまでよりも長期戦になりそうな気配です。目先はイベント的で派手なリスク低減策もカンフル剤として必要でしょうが、長期的には人ごみを避けるとか、衛生習慣(咳エチケット、うがい、手洗い等)の徹底、免疫力向上につながる生活(食事、運動、睡眠)といった地味で継続可能なことを確実に行うことが必要であると思います。

命を救うのは判断と行動

東日本大震災から9年、阪神・淡路大震災から25年。特に東日本大震災で得た私達の教訓は何だったでしょう。「いのちの教育」を看板に掲げる若浜小学校では毎年、石巻市立大川小学校の見学を修学旅行のコースに入れています。2月に行った昼の放送での6年生インタビューでも、大川小学校の遺構について語った子がたくさんいました。昨年度の大川小学校の見学の時に、小6の娘さんを卒業式目前に亡くした語り部の佐藤敏郎さんがおっしゃっていました。「山が人を救うのではありません。**命を救うのは判断と行動です。**」と。(動画ギャラリーにその様子をアップしたので是非ご覧ください。)

適切な危機管理は難しい

物理学者で随筆家の寺田寅彦(夏目漱石の門下生 1878年~1935年)は、自然災害を巡ってこう書き残しています。「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむつかしいことだ。」今の私たちがまさしく直面している問題です。危機管理の軸足を、最悪の事態を考慮し危険を避ける方に置くか、危険を認識しつつも通常の生活に近づけるか、いずれにしても万人が納得する対応は難しいと思います。

できる限りの工夫で子どもたちの巣立ちを応援します

酒田市の小学校の危機管理は、前者のスタンスです。そのため本校では、証書授与の場面を交代で短時間参観する方式をとることにいたしました。卒業生の保護者の方々には我慢を強いる形になり、申し訳なく思っております。その穴埋めとしては不十分ですが、卒業証書授与シーンのライブ配信と18日午後3時を目標にスライドショー、卒業生の合唱ビデオを動画ギャラリーにアップする計画ですすめております。様々な制約がある中で、職員が一丸となり精いっぱい工夫と愛情で卒業生の巣立ちを応援いたしますので、ご家庭の皆様からのご理解をおねがいいたします。



すべてのご家庭にお願いしたいこと

- ヨーロッパで爆発的に感染症が増えていることについて、ハグや握手、頬ずりの習慣との因果関係ははっきりしていないようですが、ハグや握手、頬ずりなどは濃厚接触の典型ですので、しないようご指導ください。
- 気分転換のために、外出したり、軽い運動をしたりすることは制限されていませんが、大人数が集まる場所を避ける、一度の多くの人々が密集する運動や遊びは感染拡大防止の観点から避けてください。
- 丁寧な手洗い、外出後のうがい、栄養バランスの取れた食事、適切な睡眠と運動といった健康な生活のために必要な習慣の維持継続をお願いします。